

私なんもやってへんなみたいな、社会人になれてないなみたいな焦りはめちゃくちゃあるけど、それでも人と違う経験を一年間したし、はい、急がば回れやなどと思つて

語り手 夏原（藪野） 絢菜（高校十三期生 大学生）

聞き手 奈良井 羽桜

オーストラリア留学

今ね、一年間休学してて。

―オーストラリア、ですよね。

そうです、そうです。オーストラリア帰ってきたばかりで。だから

こんな髪色やし、ふふ。（髪色が金髪のような明るい色）

―めっちゃ可愛いです。

ふふ、ありがとう。なんか自己肯定感の研究を今してるん？しようと

思ってるとか？

―いや、自己肯定感についてはしていないんですけど、子供がすごい興

味があつて。で、大学の学部ってあれですよ。

そう、子ども社会ね。

―だから（笑）。

ああ、確かに学部のこととかね、色々と、そうやね。で、その、将来

はまだ決めてないけど、教員になりたいとかまだ全然決めてないって感

じ？

―教員になりたいって決めてはないんですけど、子供とあと英語がすご

い好きだから。

ええ。じゃあ英語教師とか。そう、いいねなれたら。留学とかは行ったことある？

―なくて、したいと思つてたんですけど、七月に入学したい人はその申請をしなくちゃいけなくて。で、今年海外研修もあるから、もう三ヶ月とか行くなら、その大学で行きたいな。

そうですね。確かに大学行った方がいいかも。

―じゃあ、どれぐらいまで留学するんですか。

留学をした期間は休学は一年間なんですけど、行つてたのは実際は半年間だけで、半年間ちよつとフリーターしてお金貯めて。で、ワーキングホリデーだから、正規の大学とか学校に行くわけでもなく、ちよつと秋、働いてお金貯めて、英語も勉強したいなつて思つてて。

―オーストラリアのどこで。

シドニー。今、今冬やから寒くて。だから今びっくりしてる。暑すぎて。なんか最初、エージェントを通して、日本語教師ボランティアみたいな、現地の高校生に日本語を教えるみたいな、教師としての経験も自分自身積みたかったから、二ヶ月間だけ現地の、てか中高、立命館中高みたいな感じの公立高校で日本語教えて、そこからもう自分でバイト見つけて、家を見つけて、で、働いてた感じです。でも全然なんか、大学行つて正規で交換留学みたいな形で行つても全然いいし、ワーホリっていう選択肢もあるから、どっち選ぶかはその時何がしたいかっていうのがあるかも。

―え。じゃあ今日本に帰つてまたオーストラリア行くんですか。

いや、もう半年間経つてるからもう。そうそう、終わつて戻つてきたつて感じです。ぜひ行つてみてほしい。一年間ぐらい海外行つてみてほ

しいな。

*

高校時代

何から話そうかな。私は中学からやって、で何もしなくて、中学の時は。ターニングポイントは、SDGsのとの出会いみたいな感じなんけど。なんか、その時はまだ、SDGsをみんな知らへんみたいな時代やって。で、初めて教えてくれたのが田辺先生の授業やって。なんかすごいSDGsって、こんななんか世界中がみんなで取り組んで一つの目標に達しようとしてるってすごいなみたいな。で、自分もSDGsのためになんかできひんかなと思って。その当時も子供にすごい私も興味があつて私の親、お母さんが教師やったから、そう、子供も好きやったし。なんか、その貧困になぜかすごい興味があつて、やっぱ、その苦しんでる子供たちを助けたいなみたいな感じ。

CMとかでよくさ、ユネスコとかのあれがあるやん。あれとか見て、結構ひどい状態なんやなみたいな思つて、じゃあ、なんかちょっとアクション起こしてみるかってなつて。それが多分高一の夏休みにカンボジアにボランティアに一月行つたことがあつて。

—え、すごい。

なんか「トビタテ」って知ってる？それ申し込んで受かったから奨学金もらつて一ヶ月間だけ行つて。それはなんか自分の、自分の力でエージェント探して。「トビタテ」ってお金出してくれるだけやから。そのエージェントとかはもう自分で探して、ここに行きたいんでお金出してくださいっていう感じやね。全然、高三からでも行けるよ。

—ほんまですか。

うん、全然行ける。で、その時に現地の小学校に行つて、英語教える

つていうボランティアをしたの。あとなんか、壁を塗り替えるっていう、なんかそういう修繕。

—楽しそう。

ふふ。そのエージェントは、日本人が少なくて。フランスの高校とか、イギリスのとか、イタリアのとか、結構ヨーロッパ系の人と友達になれて。英語やったし会話も。そういうのが英語力向上みたいになつていうのが高二の夏やったかな。よかつたよ。なんかそんなに、めちゃくちゃ発展途上国って感じじゃないのよ。ちゃんとビルもあつたりするし、ヨーロッパ人向けの観光客向けのレストランとか行つてたから。確かホテルステイやって。ずっとその同じホテルで一ヶ月間同じ友達と過ごすから、めっちゃ仲良くなつて。そのイギリス人の子と一緒に。

—えー楽しそう。いいな。

で、カンボジア一ヶ月行つて、ボランティアして。一回、世界に目を向けた。で、気づいたのは、日本にもこれあるんちゃうかなって思つて。日本の貧困。ずっと、世界の貧困ばつか見てたけど、日本の貧困ってあるんちゃうかなと思って。そつから、探究の授業が始まるのね。APやったかな、名前が。

—今はシンキングデザインで、TDですね。

あ、それ。シンキングデザインから始まつて。私はまだそんな時、世界の貧困にも、まだちょっと目向けてたから。友達と一緒に、世界の貧困グループみたいな、ふふ。で、私が熱量と他二人の熱量が違ふかったから、結構足並み揃えるの大変で。結局何のアクションも起こせずに終わっちゃったんよね。動画アニメーションを作ってたかって、貧困の訴えかけたいみたいな。でも、アニメーション作るの大変やでつて、その大学の教授に言われ。で、どうするつてなつて、紙芝居にして。結局、あー

あーって、ふふ。やっぱそれで、自分一人でやった方が、研究とかやったらいいかもなって思て。

ーじゃあ三年生探究も？

そう。貧困のこと。で、そこはやっぱ日本に目向けたいと思つて。田辺先生が、私に向けてじゃないけど、一回、TDの最終授業の全校集会みたいなのがあつて、その時に「君たちは困ってる人のもとに実際に会いに行つたか。」って言われて。聞いたことある？

ーいや、接する機会が少なくて。

あ、そうなんだ。まあそれで実際に困ってる人に会いに行かへんかったら、あなたたちがやってることは自己満かもしれへんやろ、みたいな。必要なこともわかってないのに。それでハツとして。私確かに会つたことないし、世界のどこの国かわからん貧困の子供みたい。ターゲットも全然絞れてなかったし、会つたこともないのに知ってもらおうみたいな、めっちゃおこがましいことしてたみたい。

そう思つて、じゃあ会いに行ける日本の子供たちに会いに行こうと思つて。そこで調べたのが児童養護施設で。親の虐待とか、親がおらん子供とかを引き取る施設やつて、やっぱそこは親がおらんから、一人で自立して生きていかなあかんくて。やっぱ貧困になりやすいねんけど。守山のな、児童養護施設が一個あつて。それはここの近くにあるんだけど、(守山市民ホールのカフェで話している)そこにアポ取つて行つたんですよ。

ーそうなんや。

そう。でも、コロナやつてそんな時。子供らにはちよつとコロナで会えへんって言われて、職員からのお話やつたら、いつでも大丈夫ですって言われたから、職員の方とお話して。で、私が日本の貧困を回復するに

は、学力を上げて選択肢をいっぱい増やしてあげないと、自分のやりたい仕事につけへんから、貧困になると思つて。仮説を立てて、まず。例えば給料の高い職業に就けへんから、高校とか大学とかに行けへんくつて、自分の経済的な援助がないから。良い仕事に就けへんから貧困になるんやつて思つて。そうなんですかつて聞いたら、職員の人が、そもそも自分はどんなに頑張ってもいいところには行けへんって思つてるし、大学にも行けへんって最初からもう諦めてるから、行かへん子の方が多いって聞いた。だから、これってな、自己肯定感がすごい低いから。

ーそういうことか。

そう、なんか自分のことを認めてあげれへんから、どんなに頑張つても自分は無駄やんみたいなのが根本にあるから、頑張れへんくつて、将来諦めちゃうつてこと多いみたいなのを聞いて。じゃあ、その学力格差とかを埋めるためには、やっぱ自己肯定感を最初にあげてあげて。あげてあげておかしいけど、そのあげないと子供たちの将来の可能性っていうのが広がらへんのかなと思つて。そこで、自己肯定感、探究しようと思つたの。

会いに行つたことでやつとニーズがわかつたというか、本当の子供たちの求めていることというか、必要なことがそれでわかつて。それを探究の最後のレポートにめちゃくちゃ書いて。やっぱ会いに行くつていうのは大切なことかなって思うけど、最近、田辺先生と話したんよ。

ーえ？(笑)。

そう(笑)。Zoomで話した時に、卒業探究の授業で、なんか最優秀賞をとった三人がいて、その三人は、なんかこの大学四年間ずっと、年に一回田辺先とZoomしなあかんくて、その中の一人やつて。書くことがいっぱいあっただけやねんけど、四年間ずっとやつてたから、この

今年の三月で、それで終わりやった。それで、Zoomで話しててんだけど、田辺先生は、昔、会いに行きなさいって言ってたけど、今はあんま言っていないみたい。なんかそれは、例えば、なんか宇宙とかのことに興味持ってる子やったら、誰にどう会いに行くねん、みたいな。会に行けへん子もいるから、なんかそういう共有するのは最近やってないって。

ーなるほど。

でも、ただ、私は、会いに行つてわかったことがあったから、会えるんやったら。でも、興味あることが子供やから、全然どこかしら歩いて行つて会えると思う。

ー確かに。その探究テーマを決めたのは高三の始めぐらいですか？

うん、高三の五、六月ぐらいかな。課題が出て、フィールドワークに行きなさいみたいな課題があつて、春休みに多分行ったんかな。

それで、児童養護施設に行つて、自分の問いを決めて。で、八月にアクション起こして論文書き始めたみたいな。

ーなるほど。

そう、で、アクションはどうやったら自己肯定感を高められるかみたいなのを考えた時に、私がオリジナルで考案した、恥ずかしいんですけど、ハッピーカードみたいなのがあつて。例えば、私がカード作るので、先生から子供たちにそのハッピーカードを渡して、何かができたとか、学校でこういうこと褒めてもらえたよとか、縄跳び十回できるようなになったとか、宿題をやったとかほんまに簡単なことでもいいから、子供がその持つてるカードに、先生がよくできましたって言って褒めて、そのシールを貼っていくつていう。なんかイメージ的には、ラジオ体操のシールの表みたいなのを子供らに渡して、で、先生がそのシールを褒めな

がら貼っていくつていうで。たまったものを見て、私こんなに頑張れたんやつていう、視覚的にもわかるみたいなカードを自分で考えて、子供たちの好きなキャラクターを聞いて、あらかじめそれを手書きで書いて、お願いしますって。夏休みにやつてもらった、一ヶ月ぐらい。それをまた回収して、で、プラスアンケートとった。その自己肯定感に対するアンケート。それも自己肯定感を研究してる教授に聞きに行つて、こういうことやつてきたいんですけどどうですかって裏取つて。児童養護施設の子供たちの自己肯定感のアンケートと、それプラス比較できるために、普通の小学校の子供たちにも同じように同じアンケートを送つて比較できるようにして。で、ハッピーカードを児童養護施設でやって、それを最終的に集めて集計とつて、これがいい、こういうことが言えますみたいなことをやった。三年生の最後で。で、最後に論文みたいな書いた。一万字ぐらいのやつ。多分一万字やと思う。

ーええ（笑）。

そう。でもやっぱ最終的にそのハッピーカードをした後に、自己肯定感の有名な教授のとことZoom繋いでもらつて、こういうことやつてるんですけど、これは自己肯定感の向上に役立ちますかって聞いたら、自己肯定感はその短期間で上がるようなものではないけど、やることには意味はあるから、やつてみなみたい。まあだから、自己肯定感あげることが難しいけどその事後アンケートみたいなんで、その教員の方々から、子供たちが喜んでやつてました、とかそういうなんかプラスな言葉も結構いただいたし、ああ、やつてよかったなみたい。少しでもそういう経験が誉められたとか、できたつていう経験を積み重ねて自己肯定感が上がっていくんちゃうか、みたいな結論を書いた。

ークオリティ高いです。

ふふ、なんかっぽいこと書いてるだけやねん、ほんまに。なんか元々は外交官になりたかってんけど、自己肯定感とかも学力格差を高めるためには、やっぱり自分ができたっていう経験を積み重ねないといけないって思ってる。だから自分が教師となって、なんか勉強楽しいとか、できるようなったっていう経験を積み重ねたら、それは自己肯定感高められる手伝いになるんじゃないかなと思って、教師になろうと思った。—そういうことか。

そう。その探究の授業で、自分の将来が決まった感じかな。本気でやったら、自分の興味あることとことんやって突き詰めていったら、自分の将来繋がっている人もいるし。で、教員免許とかは卒業したら取れる。単位制だから。ただ、ほんまの教員として働くためには県の試験受けなあかん。私立の立命館の授業テスト受けたりとかしなあかん。とりあえず公立で働こうかなって。教員採用試験受けようかな。

—小学校ですか？

いや、高校にしてん。

—なんの教科ですか。

社会科です。ふふ、第二田辺みたいなことしてる。いずれは母校に戻ってきたいと思うけど。あと私がやりたいことが、この学力格差を縮めたいってことやから私立に行っちゃうと、お金持ちのある程度ね。結構それ意味ないやんっていうところがあって、公立の方に行って経験積みたいなど。

—確かに、なるほどね。

*

高校時代にやるべきこと

—オーストラリアで大変やったことってなんですか。

やっぱり英語かな。私ワーホリやったからちょっと特殊なんかになって思うけど、オージーのオーストラリアの現地の人たちのカフェとかやったら、もうほんまに英語がペラペラじゃないとワーホリは行ったらあかなって思ってた。それやったら英語プラスアルファ何かを学ぶために正規で留学行った方が全然いいなって思った。私のあれで言えば、妥協しなあかんこといっぱいあったなって思う。で、それも私的に学びやったら。全然良かったなと思うけど、それをちゃんと言ってあげないとと思う。最初にフィリピンの語学留学みたいな、二ヶ月とか三ヶ月ぐらい行つて、英語力伸ばしてワーホリ行くっていう人が結構多くて、それやったら英語力も向上するし。で、あと英語力は一年じゃあんまり伸びない。

—そうなんですか。

うん。行ったら伸びるのはほんまに間違いつて思った。やっぱりいろんな人に話しかけて、英語を話す環境に自らいかないと難しい。これは難しい。でも、意外と仕事探しも家探しもイージーやった。これは聞いた話と全然違ってた。サイトとか求人もいっぱいあったから。それは難しくなかった。また行くなってなったら、声かけてもらったら。色々教えることあるんで。

—ありがとうございます。

正規はあんまわからへんけど、それはわかるから。うんうん。また聞いてください。

なんか休学、私結構周りやってへんかったから一年遅れることに結構抵抗があつて、それでもやっぱ初めだけやな焦るのは。みんな私の代は社会人でめっちゃ働いてて、私なんもやってへんなみたいな、社会人になれてないみたいな焦りはめっちゃあるけど、それでも人と違う

経験を一年間したし、はい、急がば回れやとは思って、ふふ。まだまだ全然長いし、いろんなことやった方がいいと思いました。

―なるほど。じゃあ高校でやっと思った方がいい事ってありますか。

なんやろう。それこそ短期留学を。一週間二週間ぐいからインターンシップとかってみたいんじゃないかな。あとは高校とか大学のうちに、いろんな人と会った方がいいなと思う。立命館やと狭まるやん。

私自身、ずっと附属からでも一個外に出てワーホリ行ったりとか。それこそ大学中めっちゃボランティアしてたんですよ。子供食堂行ったりとか、なんか不登校支援のとこ行ったり、土日のボランティア行ったりとか、いろんなとこ行ったらいろんな人に出会えて、すごい刺激受けてこういう大人になりたいなとか。ほんで、こういう考え方の人もいるんやとか、全く理解できひん考え方の人とか。いろんな人に会った方がなんか自分の選択肢も将来もめっちゃ広がるし、いろんな人にできるだけ多く会いに行った方がいい。あとはいろんななミとかサークル入ってみるとか、そんなんでも、そのサークルとかでもいいし。もつといろんな人に出会いたいなって思ったら、やっぱちよつと別分野のところにいったりとかしてもいいかなと思う。

―なるほどね。もし自分が高校生に戻ったら何かしたいこととかってありますか。

英語の勉強もつとしてたかな。残ってるものは、やっぱ留学かな。カンボジア行っただけ、一年間ぐらい高校の時に行ってたなら、なんか変わったかなとは思った。大学でも全然いいねんけど、やっぱ高校生の多感な時期。全然今と違う。感じるものとか、楽しかったこととか、やっぱ心が成長してる。今、一年行っただけのと、高校生のまだすごい不安定な時期に行ってる一年間とでは全然違うから。あとは、卒業が遅れた

りやっぱするやん。そういう自分にとってのデメリットみたいなのは絶対あるけど。

―ですね。考え方とか変わりますもんね。

そうね、でもとりあえず目の前の勉強頑張っしてほしいかな。あ、時間大丈夫ですか？

―あ、そろそろですね。本当に長い時間ありがとうございました。

【感想】

何事も考えるだけでなく、行動することでも今まで見えていなかった世界が見えてくるとわかり、行動力の大切さに改めて気付かされた。また、探究の授業で将来につながることもあると知り、自分の興味のあることを突き詰めて本当は自分が何をしたいのかということを見つけていきたい。そして、たくさんの人との交流を大切にして自分とは違った価値観に触れながら自分の成長に繋げていきたい。



右：語り手 夏原（藪野） 絢菜さん
左：聞き手 奈良井 羽桜